

岩手日報

現場の従業員から工事の説明を受ける岩手大の学生ら



復興工事の現場に学ぶ 岩手大生 釜石市 釜石 興工事を手掛

釜石市で復興工事を手掛ける瀧上工業（愛知県半田市、瀧上晶義社長）は12日、建設業の魅力ややりがいを伝えようと、岩手大の学生を対象に釜石市定内町の大沢高架橋で工事現場の見学会を開いた。

岩手大工学部社会環境工学専攻の学生、大学院生7人が参加。現場で働く従業員が工事の進捗状況を説明した後、橋の構造や作業に

使われている鉄の種類などを解説した。

4年の岩根颯太郎さんは「地域に合わせて工事の材料を変化させるなど、とても勉強になった。大学院に進んで橋の研究を続けていきたい」と復興工事の現場から学びを深めた。

同高架橋は、三陸道と東北横断自動車道・釜石秋田線の釜石ジャンクションを結ぶ地点にあり、2018年度に開通する予定だ。

2016年(平成28年)

9月13日
火曜日

発行所
株式会社 岩手日報社
盛岡市内丸3番7号
郵便番号 020-8622
©岩手日報社2016

岩泉町に貸与した車両

りするなどの被害を受
けた。車両をお借りす
ることができ、非常に
助かり、ありがたい」
と述べた。

調査、物資の運搬など
のために、車両を有効
利用してほしい」と拜
していた。

況や、打設に向け鉄筋
を組んでいる様子を
しながら、工程をば
じめ、使用している技術、
耐候性鋼材のメリッ
ト、上部工検査路の増
設など橋梁の維持管
理、長寿命化などに係
る施工の特徴について
解説した。

大沢高架橋など見学

岩手大学
の学生ら 工法や技術を学ぶ

岩手大学工学研究科
社会環境工学専攻の構
造工学研究室で学ぶ学
生らは12日、復興支援
道路として整備が進む
釜石花巻道路「釜石道
路」の高架橋で現場見
学会を実施した。床版
工や橋台など実際の復
興現場を教材に、構造
や工法、施工技術につ
いて理解を深めた。

このうち、釜石市定
内町で進む大沢高架橋
では、5月に上部工を
架設後、7月から本格
化している床版工の状
況を視察。同橋は釜石
道路から、三陸沿岸道
路の（仮称）釜石ジャ
ンクションに接続する
場所で、3径間連続鉸
桁橋として整備されて
いる。

上部工工事を請け負
う瀧上工業の担当者
は、全体の4分の1ほ
どで床版コンクリート
の打設を終えている状
況を示した。

見学会には、研究室

の院生と4回生7人が

参加。当日は大沢高架
橋（同14.5km）と、
大畑高架橋（同21.5
km）の現場を見て回っ
た。

たも必要になるだろう」
と、自ら行動する組織
イとしてのあり方を模索
する。

地域に精通した専門
家集団としての地域建
設業の正しい姿を伝え
ていくことの重要性も
指摘。広報活動など一
社ごとでは困難なテー
マに組織力を発揮して
向き合つと共に「意思
決定のスピードやフッ
トワークの良さを生か

確に対応

公幅も、各種イベントへの
送協力、希望郷いわて国
減体・いわて大会への車
こ両寄贈など、市勢発展
りにソフト・ハード両面

大沢高架橋で進む床版工の現場を見学する
学生ら



日刊 岩手建設工業新聞

H28.9.16

建設新聞

K

発行所
建設新聞社

〒980-0821 仙台市青葉区春日町7-5

市外局番(022)221-下記番号

総務部 4601

FAX221-4633

編集部 4602

FAX217-4170

編集事業部 4603

FAX221-4637

営業部 4604

FAX268-6416

編集事業部情報室 4606

FAX221-4637

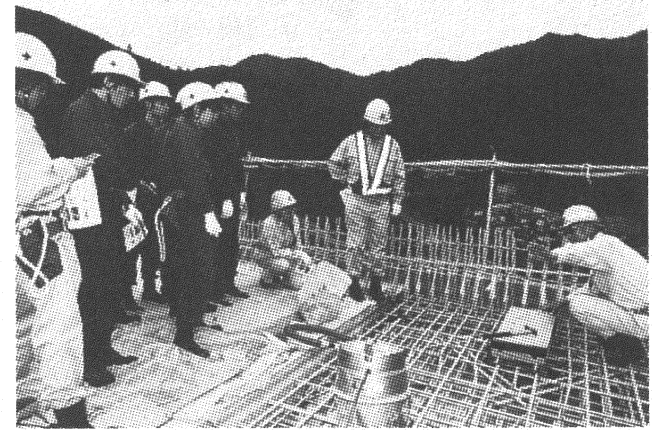
©建設新聞 2016

岩手大学

研究や進路の参考に

工学研究科生が大沢高架橋など見学

ナマの教材で研究の参考に



岩手大学工学研究科は12日、大沢高架橋上部工工事などで現場見学会を行った。復興支援道路に位置付けられ、従来にないスピードで整備が進む釜石花巻道路の主に橋梁の最新技術や構造、施工上の特徴などを学ぼうと実施した。

この日は工学研究科の社会環境工学専攻、構造工学研究室の院生と4回生7人が参加した。

大沢高架橋（L1145区）は、釜石道路と三陸沿岸道路をつなぐ釜石JCTの接続地点で整備。夏まで

に鋼橋架設工（据付）が完了しており、現在進行中の床版工事（コンクリート施工）の状況を中心に見学した。発注者の東北地方整備局南三陸国道事務所や、施工する瀧上工業の担当者らが工事の内容や作業手順、使用材料の特徴などを説明した。

学生らは、実際の鋼製橋梁の現場や実物の床版コンクリート打設の状況を目の当たりにし、大畑高架橋A2橋台（施工Ⅱ大林組）の現場も見学するなどして見識を深めた。